



## 第 1793 回例会

平成 26 年 6 月 23 日 (月)

12:30~ 海南商工会議所 4F

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング
3. 出席報告

会員総数 50 名 出席者数名 27 名  
出席率 54 % 前回修正出席率 68 %

4. 会長スピーチ 会長エレクト 山東 剛一 君

皆さん、こんにちは。  
本日、小椋会長は告別式に行っているため、スピーチを代読させていただきます。

今日の会員卓話は、千賀知起さんの卓話です。皆さんご清聴よろしくお願い致します。

先日、21日(土)海南市民交流センターに於いて当クラブが協賛しています「少年メッセージ 2014」海草地方大会に行って来ました。メッセージの発表は海南、海草の各中学校 10 校で選ばれた生徒が発表するものです。上位 2 人が県大会に出場権が与えられますので、生徒の皆さんには真剣な眼差しで発表していました。その結果上位 2 名、最優秀賞に選ばれたのは、紀美野町立長谷毛原中学校の石井暖乃さん、紀美野町立美里中学校の森下真悠子さんでした。この 2 名は 7 月 26 日(土)和歌山県日高郡日高町の交流センターに於いて県大会に出場します。県大会では上位を目指して緊張することなく、悔いのない発表をして頑張ってもらいたいものです。これでこそ我がロータリークラブの青少年奉仕委員会としての協賛の意味があると思いました。

5. 幹事報告 幹事 大谷 徹 君  
○メーニングアップ

6 月 17 日 御坊南 R C  
○例会臨時変更のお知らせ



和歌山 R C 6 月 24 日 (火) → 6 月 24 日 (火)  
18:00~ ダイワロイネットホテル  
(最終夜間例会)

新宮 R C 6 月 25 日 (水) → 6 月 25 日 (水)  
18:30~ 「かわみ」

○休会のお知らせ  
海南西 R C 7 月 31 日 (木)

6. 会員卓話

千賀 知起 君

皆様 こんにちは。小椋会長 あと 1 回ですね。会長はじめ執行部の皆様、この一年間お疲れ様でした。

小椋会長といえば、僕の職業柄でしょうか、紀美野町の色々な素材を紹介してくれました。柚子をはじめとして様々な柑橘類や、この時期では鮎の業者も紹介してくれましたね。ということで、今回は小椋会長を労って、梅雨真っ盛り 6 月の美味しい食材の話をさせてください。

6 月は、気温だけ見ると快適で過ごしやすいはずなのに、梅雨入りしてからの湿気と雨模様はどうやら人間を暗い方向へ導くようです。たまの休みも外出できずストレスが溜まるところに、食中毒に対しては一層の警戒が必要になり、頭の中はもうパニック寸前です。だけど、こういう時期があるから、美味しいお米も育つし、真夏の日照りにも地盤が耐えることができるのだと思います。又、この時期にしか味わえない素材や、お目にかかる草花、螢が光るのも今ですよね。

僕は 6 月を楽しむことにしています。まず、6 月に一番美味しい川魚といえば、やはり鮎でしょう。今年は日高川や有田川では、確かに解禁日が 5 月 1 日だったと思うのですが、解禁日から少し経ってからの大きさの鮎が僕は好きです。

鮎は『年魚』つまり 1 年の魚とも呼ばれ、文字通り 1 年しか生きることができない魚です。その一生は、秋に川の上流で産卵されることから始まります。2 週間程で孵化し幼魚は群れをなして下流へと向かいます。寒い冬を海原で暮らした稚魚は、翌春生まれた川に集団で遡上して、初夏に中流や上流域で泳ぎ回ります。



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)  
電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：小椋 孝一 幹事：大谷 徹 S A A : 重光 孝義

す。そして、10月から11月にかけて産卵し、その天命を全うするという忙しいライフスタイルを演



じます。孵化から川を下り、海から遡上するまでは、群れで生活するのに、本来の住み処である中流や上流域だと縄張り意識が頗る強く、半径 1m 位の生活圏を保ちます。自らの縄張りに侵入しようとする他の鮎に対して、頭突きや体当たりで応戦する習性があり、この習性を生かしたのが『友釣り』という漁法です。縄張り意識が目覚める若鮎がちょうど 6 月頃ではないでしょうか？

まず、この時期の鮎は顔が良い。若鮎の本領は生きの良さです。血の気が多いこの頃は、よくケンカもありますが、俊敏に動き回るので、その分、身が引き締まり内臓の動きも活発です。それを証明するのが若鮎の精悍な顔つきや血行の良さでしょう。次に、大きさがいいですね。最も鮎らしい食べ方として塩焼きが挙げられます。塩焼きを頭から内臓ごとぶつりつく瞬間は、言葉にできない喜びがあります。鮎は『香魚』つまり香りの魚とも呼ばれ、この独特の臓物の香りが、鮎の優劣を左右することは、いうまでもありませんよね。しかし、夏が深まるにつれ、鮎も成長します。中には、大人の手のひらよりも大きなサイズが現れます。こうなると、頭や骨を丸かじりすることは不可能です。固くて食べられません。だから身を骨から剥がして食べるのですが、この食べ方では、頭と内臓と一緒に味わう醍醐味がなくなってしまいます。やはり 15cm にも満たない鮎をそのまま 1 匹とは言わずに 2~3 匹むしゃぶりつく贅沢を楽しめるのも 6 月ならではです。

また、鮎は鮮度も大事です。新しいと内臓は芳ばしい香りがしますが、臓物は傷みも早いので鮮度の悪い鮎の内臓は逆に嫌な臭いさえしてきます。新鮮な鮎には、身体を外敵から守る保護色が残り、殆どの鮎は藻に覆われた川底に棲息するため、その体色も苔っぽくなります。ところが死んでから数時間もすると保護色が失せ、白い鮎になってしまいます。焼き上がりが黒に近い濃緑で内臓もしつかりしていたら上物の鮎とみて間違ひはないと思います。

活いている天然の鮎が手に入ればいいことなしなのですが、鮎は網では捕獲しにくく、釣りでは友釣りゆえに針が身体を傷つてしまい、生きて入荷するのは非常に困難です。養殖は香りが劣りますが、昨今、輸送と棲息状況の進歩で、活きた状態で入荷することに成功しました。こいつは旨いです。焦げるほどに香ばしく焼いたら、最高ですね。



川の王者が鮎なら、  
6月の海は白身魚では  
イサギが美味しいで  
すね。夏を間近に控え、  
丸々としたイサギが

紀伊水道で釣り上げられます。3年前から田辺では『紀州イサギ』としてブランド化され、人気を博しているようです。この時期『麦わらイサギ』とも呼ばれ、鯛

をはじめ多くの白身魚が産卵後には、美味しい魚が少ない時に旬を迎えるこの魚は、調理に携わる人間にとっても、又白身魚が大好きな人にとっても、これからハモと共に大変重宝いたします。そういうハモも良いですね。

ハモといえば、先日読売TV系の関西ローカルですが『旬ハイウェイ』という番組から、ハモの調理方法についての取材依頼がありました。2分間程度の短い番組ですが、ゴールデンタイムですので、機会があれば是非、チャンネルを回してください。放映日は未定ですが、7月後半になると言っていました。そうそう、ハモの話になると、また長くなるので、イサギの話に戻します。イサギは、紀南地方では『鍛冶屋殺し』とも呼ばれ、非常に骨が固い魚です。顔は、真ん丸な瞳がつぶらで愛嬌のある可愛い表情ですが、芯が強い一面も持ち合わせているようです。鮮度の良いうちはなんといってもお刺身が一番ですね。脂がのっているのでお寿司にても良いし、塩焼きにして、熱々の内にレモンを絞ってもいけますね。

冷酒との相性も抜群で、ついついいってしまうので皆様もお酒は程々に。ガラスに頭をぶつけて救急車で運ばれないよう気をつけてください。

話は変わりますが、6月の野山は草花の宝庫ですね。時折山に出向き、料理に使う葉っぱ類や花などを摘んできますが、可憐な花ばかりです。父親もよく、紀美野町方面でサワガニやこの時期の草花を持ち帰ってくれますが、『ホタルブクロ』という花をご存じでし





ようか？ここにいるメンバーなら、当然わかっていると思いますが、白くて釣鐘型をした可愛いお花です。神戸での修業時代に先輩から『ホタルブクロ』を活けたいから山に行って取ってきてくれと頼まれ、早朝の有馬に向かいました。探せど探せど一向に見つかりません。そんな時、民家の庭先で咲いているのを見つけ、朝早くから門戸を叩きました。その家の住民も、確か80歳位のお婆さんだったと思うのですが、有馬の山奥で百姓をしているようだったので、早起きしていて、無理やり一株分けて頂きました。そして、修業のあと、ここに戻ってきて、車で毛原の方まで行くと道端にもいっぱい咲いています。やっぱり和歌山は良いところだなど痛感させられました。

紫陽花も今が見頃ですね。もともと日本古来からある品種で、万葉集の時代にはその姿が詩(うた)に詠まれていたそうです。昨今では、ガクアジサイやヤマアジサイなどの花びらが{額縁型}と花びらが中央に集まる色彩豊かな{てまり型}の2種類に分類されますが、もとは{額縁型}だけだったようです。それが、江戸時代に長崎に駐留していたオランダ人が持ち帰り、{てまり型}を開発栽培し日本に逆輸入されたのが、現存する日本の{てまり型}のアジサイです。その名残からか、千利休さんから代々続く、お茶事の紫陽花はほとんどがガクアジサイなどの{額縁型}で、僕はお茶席



で{てまり型}の紫陽花を見たことがありません。

紫陽花は見た目  
にも可憐な花で、  
どこか悲哀を含ん  
でいるようにも思  
えます。

ある人から聞いた話ですが、今から数十年前、沢山の紫陽花が咲き並ぶ庭の中央に大きな縁側のついた木造の平屋建てがあり、そこには浴衣の似合うおさげ頭の愛くるしい少女が祖父母らしき老夫婦と暮らしていました。確か岸先生の昔の事務所の裏手側だったように思います。少年は、その少女と親しくなりたいのですが、なかなかきっかけがつかめません。そこで少年は陽の落ちる頃になると、犬の散歩を装い、少女の家の紫陽花をじっと眺めていたのでした。現在なら確実にストーカーになるでしょう。梅雨時なので、当然雨降りの日が多く、片手の大きな傘をさし、もう一方の手には犬の鎖を握るものですから、両手の自由が利きません。つけ込むかのように、夕暮れ時のヤブ蚊の集団が少年を襲います。そんな日々が何日も続き、自分に気付いてくれない少女に少年は苛立ちすら覚えるようになりました。しかし、シャイな少年は紫陽花を眺めること以外に友達になる手段が見当たらず来る日も来る日も、紫陽花通いが続いたのでした。

こんな時、ドラマや映画だと、些細な事から少年の存在に少女が振り向くシーンがあるのでしょうが、そうまく事は運ばず、少年は安物のドラマの非現実性を罵ることで、心のもやもやを振り払う毎日だったようです。その梅雨は長く、高校野球の県予選が始まつても、前線は一向に北上の気配をみせません。少年はくたびれもせず最愛の少女の幻影を求めるものがいれば、花を落とすものもある紫陽花たちと一緒に、自分の無力を嘆きました。最後は傘もささずに、雨空を見上げ立ち続けていたようです。梅雨の雨は、涙さえ流してくれます。そして、遠雷つまり雷雨で幕を閉じる梅雨明けと共に、淡い思いは終わりを迎えました。皮肉にも、少女の家の方角には、七色の紫陽花のような虹がかかっていたとか・・・。とまあ、紫陽花の思い出には、こういう悲しい話があったようです・・・。

小椋会長を労うため美味しい物の話をするつもりが、小椋会長の顔を見ていたら、何故か失恋の話になってしまいます。次に6月で旨いものといえば、色々お話したいのですが、そろそろ時間が参りました。

この続きはまた次回ということで。ご清聴ありがとうございました。

## 7. 閉会点鐘

## 次回例会

第 1794 回例会 平成 26 年 6 月 30 日(月)

18:30 「美登利」最終例会



# ニコニコ・BOX

山東 剛一看

大谷 徹君

千賀 千起 紛

花田宗弘 君

小椋会長、山畠副会長不在で、小椋会長のスピーチ代読させて頂きます。次期会長、本日はご苦労様。また、千賀君、卓話ありがとうございます。本日はよろしくお願ひします。

マリーナシティのヨットクラブに今年は海外から、世界一周のヨットが入ってきました。7年前に母国を出港した子供4人連れのご家族のお世話をさせていただきました。ホタル狩り等楽しみ有意義な時間を過ごすことができました。

寺下 卓 省

先週例会を休ませていただき母校である県和商で、ビジネス実務の講話をしました。後輩たちのために仕事のこと、人生のこと、ロータリーのことをお話しさせていただきました。



## 才能を発揮するチャンスを 小口融資プロジェクト

わずかな融資（約 50 ドル）で女性の経済的自立をサポートする、中米での取り組みをご紹介します。

ユニークな融資方法 パン屋をはじめたマルタさん

ここは、ホンジュラス西部の高地。レンカ族と呼ばれる土着の民族が暮らしているこの地域には、深刻な貧困問題があり、支援なしでは経済的に自立することが極めて難しい状況となっています。そこで、女性の経済的自立をサポートする地元団体「Adelante Foundation」が、地元ホンジュラスと米国カリフォルニア州のロータリークラブと協力し、グローバル補助金を利用した融資プロジェクトを実施。これにより、600件の小口融資のほか、ビジネス研修と必要物資の提供を行うことができました。



このプロジェクトでは、ユニークな融資方法が用いられ、個別融資を行うのではなく、4~6人のグループを対象として担保付きの融資を行いました。こうすることで、誰かが返済できなくても、グループの仲間が代わりに支払い、助け合い、励まし合いながら事業を波に乗せることができます。また、地元の人が融資の審査やアドバイスを行うことで、地域全体の結束を強めることができます。

## 6月はロータリー親睦活動月間です

「プロジェクトを通じて生産力を向上し、雇用機会も広げることができる」と話すのは、ロータリー会員のワイン・コックスさん (Poway-Scripps ロータリークラブ) です。「返済されたお金を新たな融資に当てることで、ゆくゆくは地域社会と女性の暮らしに大きな変化をもたらすことができるでしょう」才能があってもチャンスに恵まれない女性に着目支援対象を「貧困者」とみなすのではなく、「起業家」として接することが大切。こう述べるのは、Adelante Foundation のジーナ・カプチーティさんです。「才能やスキルを発揮する」チャンスがない女性への支援に力を入れています。「変化をもたらすもの、それはチャンスと成功から生まれる自信です」

## たんぽぽの会との交流会

海南東ロータリークラブ 社会奉仕委員会

6月15日（日）浜の宮ビーチでカヌー体験を中心とした「たんぽぽの会」との交流会を開催しました。



小椋会長



カヌー協会の皆さん



事前の練習風景



たんぽぽの会 上南代表



柳生 社会奉仕委員長



## 障害児らとカヌー体験

海南東RCが交流会

